

「宝」継承へ挑戦次々

「地域の誇りとして、子どもたちに継承していきたい」。無機質なステンレス製のふたに覆われた井戸の前に腰を下ろして語り始めた。豊臣秀吉が茶の湯に愛用したとの逸話が残る「茶碗子の井戸」だ。井戸水は枯れ、殺風景な様子は観光客をがっかりさせる。井戸の改修に京都市伏見区深草の石峰寺山野手町内会が乗り出し、再興へ道を開いた。昨年まで京都大教授として、物質が持つ磁気的性質を研究してきた。低温物質科学研究センター長を最後に定年退職した直後の4月、町内会長に就いた。多忙な現役時代に「定年になったら引き受けますよ」の逃げ口上が決め手となった。

町内会に土俵を変えても、持ち前のチャレンジ精神を貫いた。就任1カ月で、地元で信仰を集める地蔵の撤去問題が持ち上がった。土地の所有者と話し合い、借り受けて保全することが決まった。地蔵4体を収めたほこらは老朽化

「茶碗子の井戸」再興に取り組む まえがわ さとる 前川 覚 さん (65)

のため、改修することに。これ 茶の水をくみに行きました」。に合わせ、近くの井戸にも手 思い出は深い、今の子どもをつけることにした。「幼い たちにはなじみがない。ろ、正月にお客さんに出すお 107世帯が暮らす町内



茶碗子の井戸再興に取り組む石峰寺山野手町内会会長の前川覚さん。ステンレスのふたが被された井戸を前に活用方法を熟く語る(京都市伏見区)

说得重ね地域まとめる

会。「地蔵のほこらの改修は分かるが、なぜ井戸まで」。地域の宝を子どもたちへ伝承する大切さを説いて回った。ほこらと井戸の改修費用は約300万円。町内会にとつては高額だ。地域から寄付金を募り、予定額を70万円上回る370万円を集めた。

うれしい誤算もあった。枯れたはずの井戸水がわき出ていることも分かった。改修にもアイデアが多く生かされた。手押しポンプをつけ、地域の子どもや観光客が水遊びができるようにするほか、アクリル板をふた代わりすることで井戸の中をのぞき込めるようにした。改修には子どもたちも加わる。守っていく意識を養うためだ。待望の井戸は6月に完成する。

取り組みを通じて、旧友とも再びつながった。「これもお地蔵さんが与えてくれた機会と思っている」と笑う。

(生田和史)

スポット
ライト